

ラヴェルの「水の戯れ」。一所にジッと止まらず、絶えず躍動し続ける水スライム。方円の器に随う如き、ストップモーションやズームアップの静止画像なし。クネクネ蠢き、生命感ある蠕動、持続感。作曲家特有な指使い、音の重なり色合いコンビネーション、次から次へ融通無碍の変化。前に一度聴いたコトがあるが、その時と違う新鮮な解釈にニンマリ。

ショパンの「バラード3番」、今日最も市民権のない作品、秘かにピアニストが自身を問う、自信の現われ。気力充実ハイテンション、ドーパミン全開、ダイナミックに捌く横綱相撲。「別れの曲」、単なるアンコール・ピースでなく、プログラムの収まりを託す。ピアニストの話では、作曲家が最もキレイなメロディーと自賛。されどて、センチメンタルメンメンのロマンチック路線なし、雄々しく気高い中間部、弱々しさはグットバイ。

フォーレの「シシリエンヌ」、フルート演奏をよく聴く、ピアノヴァージョンでは初めて。伴奏では知らなかった裏事情、目の当たりクリア明らか。メロディーの飾り付け、心地よいフィット・タッチを目指さず、馴染まない不協和の撫で撫で。フォーレさん、ショパンさんからラヴェルさんやドビュッシーさんへの橋渡し。夜想曲や舟歌に潜む、とっつきにくい性格、作曲家のオリジナリティを実感。個性のワケの解き明かし納得。

小さなコミュニティの、コケラ落し相当のコンサート。親しみ易いポピュラーな作品を中心に、奇を衒わない無難な選択。かといって、安易に大衆に迎合して、耳障り好い様に崩すことはせず、あくまでもオーソドックス。確固たるポリシー、好ましい融通のなさ、真面目なピアニストらしさ、苦笑い。ピアノの上に並ぶ楽譜、今までなかったこと、よく弾き込んでいる小品なのに、どうしたのかしら、猛暑によるエアポケット防止対策なのか。(2010.8.24)

モーツアルト：幻想曲 ニ短調 K.397

モーツアルト：トルコ行進曲(ピアノソナタ 11番 イ長調 K.331 第3楽章)

シューベルト：楽興の時3番 ヘ短調 D780-3

フォーレ：シシリエンヌ Op.78

ラヴェル：水の戯れ

ドビュッシー：亜麻色の髪の乙女(前奏曲集 第1巻 第8曲)

ショパン：幻想即興曲 嬰ハ短調 Op.66

ショパン：ノックターン 20番 嬰ハ短調 Op.poth

ショパン：バラード 2番 ヘ長調 Op.38

ショパン：練習曲 ホ長調 Op.10-3「別れの曲」

---

(アンコール)

ベートーヴェン：エリーゼのため イ短調 WoO59

---